

高岡市総合計画第4次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

資料No.2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (ℕは新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R5年度 実績値	R5年度 達成率	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応 (評価・課題)	R6年度取組み内容 (今後の方向性)
1	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	①新たな事業活動の創出	◎創業件数(累計)	増加指標	件	171 (R2)	120	178	148.3%	240	307	127.9%	360	480	600	高岡市創業支援等事業計画に基づき、各種創業セミナーや創業・事業承継支援補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、各機関との連携による切れ目のない支援を実施した。さらに、R5年3月に「TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)」を開設。R5年11月には「高岡市／富山銀行コンソーシアム支援事業」を開始し、目標を達成することができた。	起業を志す方へのアプローチや起業の裾野を広げる伴走型支援の展開など、引き続き、各支援機関と連携し、サポート体制の充実を図るとともに、「TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)」や「高岡市／富山銀行コンソーシアム創業支援事業」等と密に連携し、更なる創業支援の取り組みを進めていく。
2	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	②地域産業の競争力強化	◎ℕ企業訪問における新商品開発・販路開拓相談件数	増加指標	件/年	84 (R2)	109	56	51.4%	112	75	67.0%	115	118	121	目標達成には至らなかったが、昨年度と比較し、相談件数は増加した。コロナ禍が落ち着いたことにより、企業活動が活発になり始めている兆しであると考えられる。また、別件の相談の際にも支援制度の周知に努めた。	コロナ禍が落ち着き企業活動が活発になってきている兆候が見え始めているため、過去に制度を活用したことがある企業だけでなく、新規企業の掘り起こしを進めるため、積極的な企業訪問を展開し、支援制度の更なる周知に努める。
3	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している		◎伝統産業生産額の維持	維持指標	百万円/年	10,716 (R元)	10,716	9,804	91.5%	10,716	10,885	101.6%	10,716	10,716	10,716	ライフスタイルの変化による高額品の需要低下や事業所の減少等があったものの、目標を達成することができた。R5年度は、これまで実施してきた後継者育成や販路開拓支援のほか、海外への販路開拓についても支援を拡充して実施した。今後も海外のニーズをとらえて効果的な販路開拓支援を行っていく必要がある。	各伝統産業組合や団体等についても継続的に支援をしていくほか、R6年度においては令和6年能登半島地震で被災した伝統産業事業者に対する支援策を創設したことから、事業復旧に対する支援も行っていく。また販路開拓については、特に米国への販路拡大を目指し、各種支援策を講じていく。
(1)	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している		◎創業件数(累計)(再掲)	増加指標	件/年	171 (R2)	120	178	148.3%	240	307	127.9%	360	480	600	高岡市創業支援等事業計画に基づき、各種創業セミナーや創業・事業承継支援補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、各機関との連携による切れ目のない支援を実施した。さらに、R5年3月に「TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)」を開設。R5年11月には「高岡市／富山銀行コンソーシアム支援事業」を開始し、目標を達成することができた。	起業を志す方へのアプローチや起業の裾野を広げる伴走型支援の展開など、引き続き、各支援機関と連携し、サポート体制の充実を図るとともに、「TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)」や「高岡市／富山銀行コンソーシアム創業支援事業」等と密に連携し、更なる創業支援の取り組みを進めていく。
4	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	③産業基盤の整備・企業立地の推進	◎ℕ市内企業の設備投資件数(累計)	増加指標	件	6 (R元)	10	6	60.0%	20	6	30.0%	30	40	50	目標に達しなかった要因として、市内の全ての団地が完売したこと、補助要件である新規雇用が確保できなかったこと等により、申請を見合わせたことが考えられる。このため、R5年度からは、空き工場などを活用した場合、雇用要件を必要としない新たな制度の創設や、投資額の要件緩和等を開始したところである。今後も企業ニーズに対応した支援策の立案をはじめ、開発に係る相談や販路開拓等、トータル面でサポートし、設備投資の促進に向けて取り組む。	R6年度においては、生産施設以外(外構、倉庫等)も補助対象となるよう拡充したところ。また、令和6年能登半島地震で被災した企業を支援するため、既存予算内において被災企業向けの支援制度を創設した。これらが活用され、設備投資の促進が図られるよう、企業立地セミナーや企業訪問にて本市の支援制度や立地環境の優位性をより積極的にPRしていく。
5	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	④中小・小規模企業の経営基盤強化	ℕ連携体制による事業承継件数(累計)	増加指標	件	－	1	5	500.0%	2	8	400.0%	3	4	5	R3年度に県と連携して実施した事業承継アンケートの結果を踏まえて、市内金融機関を含む産業支援機関等と連携し、「高岡市創業者支援・事業承継ネットワーク」を構築し、事業者ニーズの把握、案件の掘り起こしに努めるとともに、セミナー等を開催し機運醸成及び周知に努め、目標を達成することができた。	引き続き、事業承継アンケートの結果をもとに、「高岡市創業者支援・事業承継ネットワーク」の各機関と連携し、企業訪問等の実施により、事業者ニーズの把握、案件の掘り起こしを行う。また、創業・事業承継支援補助金、事業承継支援資金等、事業承継に関する支援制度の周知方法の強化を図る他、後継者人材バンク等を有効活用し、円滑な事業承継を支援していくとともに、新規後継者候補の掘起しに繋げていく。
6	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している		ℕ養成スクール修了生の内、伝統工芸産業に従事する人数(累計)	増加指標	人	38(前期12人、後期26人、2力年の人数)	12	17	141.7%	38	28	73.7%	50	76	88	目標値には届かなかったものの、鍛造や塗りコースは定員を超える応募があり、受け入れた。業界従事者の数は減ってきているものの伝統工芸に対する関心を持つ人は一定数いるものと考ええる。そうしたニーズにどのように応えていくかが課題である。	コース内容の変更や、講師の引継ぎなどを行い、業界や関心を持つ人のニーズに対応していく。単発の講習会や現場の見学なども取り入れることで、業界への理解、関心を高めていく。
7	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	⑤雇用・勤労者福祉の充実	ℕとやま呉西地区圏域連携 就業マッチング参加登録者数(求職者(新規学卒者のほか、転職希望者、UIJターン希望者含))	維持指標	人/年	280	300	160	53.3%	300	257	85.7%	300	300	300	類似のイベントと実施日が重複しないよう日程調整を行ったほか、学生の参加意欲が湧くよう、参加企業増加に向け二部制を導入したことなどにより、前年度を上回る参加者数となったが、就職活動の早期化の影響などにより、目標値を下回ったと考えられる。	就職活動の早期化によるニーズの変化に順応するため、引き続き合同企業説明会の開催方法等を検討していくほか、企業の採用スキル強化を目指し、企業向けセミナーを実施する。
8	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある	①農業の持続的発展	ℕ新規就農者の増加数(累計)	増加指標	人	－	10	10	100.0%	20	16	80.0%	30	40	50	R5年度の新規就農者は6人(うち畜産3人)となった。うち、UIターン就農かつ自営である人数が3人と目立った。	JAや県高岡農林振興センター等の関係機関と連携し、更なる若手新規就農者の確保に努める。
9	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある		ℕスマート農業技術導入率	増加指標	%	34 (R2)	42	47	111.9%	47	53	112.8%	51	55	59	R5年度においては、自動操舵機能付きのトラクターや農業用ドローン等の導入に対して、市の補助事業で1件、高岡地域担い手育成支援協議会の補助事業で4件の支援を行い、目標を達成した。	引き続き、市の補助事業や高岡地域担い手育成総合支援協議会の補助事業を活用して、持続可能な農林水産業の展開及び技術継承の円滑化に向けた支援に取り組んでいく。
10	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある	②農山村の振興	都市農村交流人口	増加指標	人/年	4,000 (R元)	4,200	3,239	77.1%	4,300	2,380	55.3%	4,400	4,500	4,600	昨年度に引き続き、各農園や農業センターなどで農業体験活動が行われたが、全体的に参加者数が減少していた。要因としては、温暖な気候であったため、作物の生育状況が芳しくなく、収穫体験などを例年通りに行えなかったことが挙げられる。	中山間地域等で都市農村交流イベントの新規実施や拡充を促進するとともに、それを積極的に発信することで、更なる都市農村交流人口の拡大を図っていく。
11	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある	③林業の振興	ℕ森林整備面積(累計)	増加指標	ha	145 (R元)	155	165	106.5%	160	175	109.4%	165	170	175	R5年度は里山再生事業により、4地区で約10haの森林整備に取り組み、年次目標を達成した。	今後も継続的な目標達成に向け、地元からの相談受付や県との連携等を通じ、新規地区の開拓に努め、森林の持つ多面機能の増進と森林資源の充実を図る。
12	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある	④水産業の振興	ℕ農畜水産物の高付加価値化への支援件数(累計)	増加指標	件	5 (R2)	9	9	100.0%	11	12	109.1%	13	15	17	R5年度は自家生産米を加工した商品開発(いなりずし)の試作等3件に対して補助を行い、累計支援件数の目標に達した。	今後、販路拡大等の関連施策を含めた支援制度や先行事例をより広く周知し、実施事業者の増加を図る。
13	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	①文化財の保存・活用	文化施設入込者数(瑞龍寺、勝興寺、武田家住宅、伏木北前船資料館、土蔵造りのまち資料館、伏木気象資料館、鋳物資料館、高岡御車山会館)	増加指標	人/年	260,793 (R元)	267,200	182,458	68.3%	273,400	237,001	86.7%	279,600	285,800	292,000	新型コロナウイルス感染症による影響が和らぎ回復傾向にあったが目標を下回った。国宝指定で大きな入込数が期待できる勝興寺では、企画展やシンポジウム等の開催でR5年の入込者数が7万人を超え、基準年に比べて約4倍に増加した。	瑞龍寺と勝興寺の2つの国宝を大きな歴史資産、文化財資産として本市の歴史・文化資産の魅力をより一層発信し、入込者数の増加を図っていく。
14	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	②歴史的風致の保全・活用	◎ℕ地域の歴史・文化遺産に関するまちづくり出前講座の実施数	増加指標	回/年	11 (H30)	15	15	100.0%	15	15	100.0%	15	15	15	多数の講座の申込があり、目標値を達成できた。	引き続き、講座の開催に努め、歴史・文化遺産を分かりやすく伝えることで、地域の宝としての意識醸成を図っていく。

高岡市総合計画第4次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

資料No.2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (㊦は新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R5年度 実績値	R5年度 達成率	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応 (評価・課題)	R6年度取組み内容 (今後の方向性)
15	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている	①地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成	㊦市場街の現地イベント来場者数及びオンライン配信動画の視聴者数	増加指標	人/年	24,300 (R元)	24,900	30,055	120.7%	25,500	28,854	113.2%	26,000	26,500	27,000	R2～4年度は、オンライン配信を中心に事業を継続してきたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行を契機に、リアル開催に移行した。その結果、オンライン配信視聴者数が11,633件から6,324件に減少した一方、実来場者数は18,422人から22,530人に増加し、目標値を達成した。歴史的なまちなみを実際に訪れ、アートやクラフトを多くの市民に体感いただくことができた。	ワークショップや作品展示、オープンファクトリー等を通してものづくりのまち高岡の技・文化・人に直接触れ合える企画に取り組む。また、同時期に開催される他のイベントとも連携し、更なる集客や高岡の魅力発信を図る。
16	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている		高岡市万葉歴史館の入館者数	増加指標	人/年	22,736 (H30)	25,300	14,772	58.4%	25,800	16,787	65.1%	26,300	26,800	27,300	国宝指定された勝興寺と連携し「万葉衣装行列」を実施するなど、体験を入り口にした新たな万葉ファンの獲得に取り組んだ。入館者数はコロナ禍による大幅減から徐々に回復していたが、令和6年能登半島地震によりR6年1月以降の入館者数が減少。R4年度よりは約2,000人増加したものの、目標値には及ばなかった。	大河ドラマと関連づけた源氏物語関連企画展の開催や、万葉歌碑魅力発信プロジェクトで整備したコンテンツ等の活用により、万葉集や万葉歌碑、万葉ゆかりの地への関心を高め、入館者数の増加につなげる。
17	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている		◎高岡市の観光客入込数	増加指標	千人/年	3,850 (H30)	3,922	2,762	70.4%	3,940	3,507	89.0%	3,958	3,960	3,965	新型コロナウイルス感染症の5類移行を契機に、観光需要が増加したことから、観光客入込数は回復傾向にあり、今後、さらなる増加が見込まれる。	高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
18	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	①観光資源の発掘と保存・活用	㊦市内主要観光地入込客数	増加指標	千人/年	223 (H30)	228	126	55.3%	229	153	66.8%	230	230	230	新型コロナウイルス感染症の5類移行を契機に、観光需要が増加したことから、観光客入込客数は回復傾向にあり、今後、さらなる増加が見込まれる。	高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
19	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている		旅行プログラムの販売者数	増加指標	人/年	1,271 (H30)	1,500	8,940	596.0%	1,600	4,012	250.8%	1,700	1,800	1,900	全国旅行支援等により、販売数が大きく増加したR4年度と比較して実績値は下回っていたものの、目標値及びコロナ前の水準を大きく上回る販売数となった。	高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
(19)	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	②広域観光の推進	旅行プログラムの販売者数(再掲)	増加指標	人/年	1,271 (H30)	1,500	8,940	596.0%	1,600	4,012	250.8%	1,700	1,800	1,900	全国旅行支援等により、販売数が大きく増加したR4年度と比較して実績値は下回っていたものの、目標値及びコロナ前の水準を大きく上回る販売数となった。	高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
20	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	③イメージアップ・誘致活動の強化	観光ボランティアによるガイド件数	維持指標	件/年	978 (H30)	980	330	33.7%	990	479	48.4%	990	1,000	1,000	新型コロナウイルス感染症が、5類感染症に移行したことから、ガイド件数は回復傾向にある。今後、北陸デスティネーションキャンペーンの開催などよりさらなる増加が見込まれる。	引き続き、高岡の魅力発信に努め、誘客及び旅行者のガイド利用に繋げる。
21	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている		㊦市HPのアクセス件数	増加指標	千件/年	5,350 (H28-R2平均)	5,480	5,537	101.0%	5,520	6,877	124.6%	5,550	5,580	5,610	能登半島地震発災以降、震災関連ページへのアクセスが多く、R6年1月は前年度比約2.5倍に増加した。R5年度末に、市公式ホームページをスマートフォンからの閲覧性や検索性、アクセシビリティの向上を目的にリニューアルし、併せて、市公式LINEをより利便性の高いメニュー構成とする等、市政情報へのアクセス性の向上を図った。	今年度作成した「情報発信ガイドライン」に基づき、市民が興味・関心を喚起するような、より効果的・効率的な情報発信に取り組む。また、各課で実施する市政情報等の発信についても各媒体に応じた発信となるよう促す。
22	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	④国内・国外交流の推進	㊦大規模コンベンションの市内開催件数	維持指標	件/年	30 (H30)	31	25	80.6%	32	19	59.4%	32	33	33	令和6年能登半島地震の影響もあり、コンベンション開催件数が増えず目標達成には至らなかったが、高岡市のPR及び来場者による様々な経済効果の増大を図ることができた。	団体旅行誘致促進事業との併用が可能なことや県との連携によりコンベンションの開催費用負担を軽減し開催を支援していく。これらの補助金について事業団体に周知し、コンベンション開催につなげていく。
23	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	⑤インバウンドの推進	◎市内外国人宿泊者数	増加指標	人/年	10,511 (H30)	13,250	2,412	18.2%	13,935	6,248	44.8%	14,620	14,700	15,000	R4年度と比較すると、約2.6倍の宿泊者数となっているが、目標値半数にも満たない状況となっており、インバウンドをはじめとするさらなる誘客促進を行う必要がある。	引き続き、高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組む。
24	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	①商業・サービス業の振興	◎開業件数(累計)	増加指標	件	-	12	20	166.7%	24	34	141.7%	36	48	60	目標を超える14件の新規開業件数となり、当支援は中心商店街、観光地周辺のにぎわいに効果をもたらしてと考えられる。	R6年度以降も、中心市街地や観光地における新規開業店舗数に直接的に寄与する事業として、引き続き支援を行う。
25	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	②中心市街地活性化の推進	◎中心市街地における歩行者・自転車通行量(1日当たり)	増加指標	人/日	10,149 (R2)	11,000	12,217	111.1%	12,000	12,845	107.0%	13,000	14,000	15,000	目標値より増加しており、新型コロナに伴う人流減少から回復傾向であることが分かる。特に休日に、中心市街地へと足を運ぶ機会が増加していることが考えられる。	セリオタウン構想やリノベーションまちづくり事業の進展等による、魅力あるまちづくりを行うこと、また、コンセプトを定めた誘引性の高いイベントを開催し、中心市街地への来街を促すことにより、まちなかに対する経済循環意識を醸成し、賑わいを回復させることに取り組む。
26	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている		◎たかおか暮らし支援事業(まちなか区域)に伴う定住人数	維持指標	人/年	60 (H25-27平均)	60	53	88.3%	60	59	98.3%	60	60	60	たかおか暮らし支援事業との併用ができない国の支援制度の利用により、まちなか区域での申請数が減少し、目標値を下回る実績となった。	住宅取得への支援に加えて、リフォームに対する支援制度について更なる周知に努め、まちなか区域への居住促進を図る。
27	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	③市街地の整備	◎㊦居住誘導区域内の人口密度	維持指標	人/ha	40 (H27)	40.0	38.1	95.3%	40.0	37.8	94.5%	40.0	40.0	40.0	居住誘導区域内の人口密度は、H27年度からR5年度にかけて下降傾向にある。居住誘導区域内を対象とした居住支援制度をR元年度から始めており、立地適正化計画に関する届出時に同制度を紹介しているが、今のところ居住誘導区域内の人口密度の改善までには至っていない。	R5年度から新婚世帯の住宅取得に関する支援を拡充しており、支援制度の更なる周知に取り組む。また、公共交通サービスの維持・改善を図り、徒歩や公共交通を利活用するライフスタイルの提案に努めていく。
(26)	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	④住宅・宅地の整備	◎たかおか暮らし支援事業(まちなか区域)に伴う定住人数(再掲)	維持指標	人/年	60 (H25-27平均)	60	53	88.3%	60	59	98.3%	60	60	60	たかおか暮らし支援事業との併用ができない国の支援制度の利用により、まちなか区域での申請数が減少し、目標値を下回る実績となった。	住宅取得への支援に加えて、リフォームに対する支援制度について更なる周知に努め、まちなか区域への居住促進を図る。
28	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている		老朽危険空家除却支援件数	維持指標	件/年	5 (H27)	8	11	137.5%	9	7	77.8%	9	10	10	空き家に関する相談対応や、空き家所有者等への指導等を実施したが、年次目標を下回った。R5年度からまちなか区域を対象とした除却支援を開始したことにより、老朽危険空き家になる前の空き家の除却を進めることができた。	引き続き、老朽危険空家の把握に努めるとともに、工事費に対する補助等の支援を行い、除却の促進を図る

高岡市総合計画第4次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

資料No.2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (ℕは新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R5年度 実績値	R5年度 達成率	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応 (評価・課題)	R6年度取組み内容 (今後の方向性)
29	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	⑤良好な都市景観の創出	違反広告物等の是正件数	増加指標	件/年	10 (R2)	10	10	100.0%	10	4	40.0%	10	10	10	是正に関する問い合わせはあったが、社会情勢の変化により、計画を見送るケースがおり、目標値を達成できなかった。	今後も屋外広告物への理解を得られるよう指導していく。
30	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	①高岡駅・新高岡駅の周辺整備	◎ℕ高岡駅・新高岡駅の利用者数	増加指標	人/日	11,970 (R元) 8,666 (R2)	12,200	10,243	84.0%	12,400	10,914	88.0%	12,600	12,800	13,000	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、新幹線、あいの風とやま鉄道、JR城端線・水見線の利用者数は回復基調にあるものの、目標達成には至っていない。	秋の北陸デスティネーションキャンペーンにあわせ、2次交通を活用した旅行商品の充実や駅施設機能の拡充を図り、新高岡駅の利用促進に取り組む。また、引き続き、高岡駅を起点に発着する、あいの風とやま鉄道、JR城端線・水見線、万葉線の利用促進に取り組む。
31	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	②高速道路網・幹線道路網・地域公共交通体系の整備	ℕ公共交通利用率	増加指標	%	8.40 (R2)	16.0	8.50	53.1%	16.0	—	—	16.0	16.0	16.0	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、公共交通の利用者数は回復基調にあるものの、コロナ前の水準までは戻っておらず、利用促進を図っていく必要がある。	高岡型コミュニティ交通の実現を目指すため、鉄軌道やバスといった骨格的公共交通の維持に努めながら、これらと地域とを繋ぐ市民協働型地域交通システムの導入地区の拡大を図る。また、生活のシーンに応じて公共交通を上手く取り入れる人づくりへの取組みとして、ノーマイカーフライデーや、子どもとあそびかけ事業の実施等、モビリティマネジメントの強化に取組む。
32	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている		都市計画道路整備率	増加指標	%	81.6 (R2)	81.9	82.6	100.9%	82.0	83.7	102.1%	82.2	82.3	82.4	着実に事業を進捗させることで、目標値を達成できた。	引き続き、国・県に対し事業の促進を働きかけていくとともに、市においても事業を推進していく。
33	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	③港湾の整備・活用	クルーズ客船の寄港回数	増加指標	隻/年	4 (H30)	11	0	0.0%	13	4	30.8%	14	14	15	R2～4年度は新型コロナウイルスの影響により寄港が無かったが、R5年度は4隻の寄港があった。コロナ禍後のクルーズ船受入の実績がまだ少なく、乗船客の行動傾向が掴めていない中で、乗船客の満足度の向上と経済効果を高める受入となるような取り組みを行っていく。	R6年度は6隻のクルーズ船の寄港があった。国内外において、本格的にクルーズ船の運航が再開し、寄港数はコロナ禍前の水準に回復した。今後も寄港数は増加する見通しである。引き続き、クルーズ船の受入の際は、安全で利便性の高いオペレーションを行うとともに、経済効果や地域の活性化のため、県や関係機関と連携し、おもてなし事業を行う。
34	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	④広域連携の推進	ℕ第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョン計画期間中に立ち上げた新規連携事業数	増加指標	事業	—	0	0	100.0%	0	0	100.0%	0	2	2	6市で新規事業検討会を行っているが、既存事業への新規取組項目を追加し、実施事業の拡充を図ったケースはあるものの、現時点で新規連携事業の立ち上げには至っていない。各市が連携中枢都市圏の政策的な意義と連携事業化するメリットについて理解を深めるとともに、各市の提案を実現につなげられるような仕組みづくりが課題。	連携の契機となる取組みの洗い出しや、新規事業実施における各市の懸念・課題を解消するよう6市の意見交換の機会を設けることで、本圏域における情勢に合った事業内容を検討し、住民サービスの向上や事務の効率化を図ってまいりたい。
35	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	①教育・保育の一体的提供の推進とサービスの充実	認定こども園の設置数(累計)	増加指標	園	19 (R2)	20	21	105.0%	20	21	105.0%	20	21	21	私立の保育所及び幼稚園からの認定こども園への移行が進み、目標値を達成した。	教育・保育の一体的提供と保育サービスの充実を図るために、今後も認定こども園への移行を推進していく。
36	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	②新たな子育て情報提供システムの構築	スマートフォン用子育て情報提供アプリの登録者数(累計)	増加指標	人	782 (R2)	2,300	2,416	105.0%	2,700	3,787	140.3%	3,100	3,500	3,900	R5年3月に、オンライン相談機能や教室・イベントなどの予約機能を追加するなど、機能拡充に努めたことにより登録者数が増加した。R6年2月から市内の産科で妊娠判明時にアプリの案内をしてもらうこととしており、今後も登録者数は伸びていくものと考えられる。	引き続き、きめ細かい情報発信とともに、アプリ上で予約できるイベント等を増やし、より利便性の高いものとしていく。また、アンケート機能を活用し、利用者の声の把握に努め、サービスの充実につなげる。
37	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	③安心して妊娠・出産・子育てができる体制の充実	子育てへの不安・負担度	減少指標	%	51.4 (R2)	50.4	56.7	87.5%	49.4	70.9	56.5%	48.4	47.4	46.4	物価高騰による経済的な不安要素が影響し、子育てに対し不安や負担を感じる保護者の割合が増えたと考えられる。	経済的支援の拡充として新たに、R6年4月から第3子以上の多子世帯の副食費軽減、R6年9月から第1子の保育料と副食費の軽減を実施。引き続き、経済的な支援を実施し、すべての子どもが健やかに成長できる環境づくりに取り組む。
38	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる		生後3か月までの乳児のいる家庭訪問率	維持指標	%	99.8 (R2)	99.9	99.2	99.3%	99.9	99.8	99.9%	100	100	100	保護者と連絡が取れず、訪問できなかった家庭はあるが、その後の3か月児健診の際に状況を確認し、支援の必要な方については対応した。	引き続き、対象者全員への訪問を図り、取りこぼしがないようにする。
39	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	④地域の子育て力の応援	子育て支援の実感度	増加指標	%	43.2 (R2)	45.0	37.3	82.9%	46.8	35.4	75.7%	48.6	50.4	52.0	物価高騰の影響等で、子育て支援が充実していると感じる保護者の割合が減少したと考えられる。	子育て世代が、仕事と子育ての両立ができるよう、放課後児童クラブやファミリー・サポート・センター等の充実を図るとともに、保護者が気軽に集い、相談できる環境づくりに取り組む。
40	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる		◎ℕ放課後児童クラブの入所者数	増加指標	人/年	1,321 (R3.4)	1,450	1,316	90.8%	1,530	1,341	87.6%	1,630	1,630	1,630	R5年度に新たに民間2クラブが開設し、市民への周知が図られるとともに運営が軌道に乗り、市全体のクラブ入所者数は増加傾向となっている。	引き続き、学童保育のニーズ増加が見込まれる校区において、空き教室や公共施設を利用したクラブ整備を検討するとともに、民間学童を誘致し、受皿の確保を図っていく。
41	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている		教員研修評価アンケートにおける満足度	維持指標	%	90 (R元～2実績を基に算出)	90	98.9	109.9%	90	94.5	105.0%	90	90	90	初任者、ミドルリーダー等のキャリアステージに応じた研修や、ICT教育・不登校児童生徒や外国人児童生徒への対応等、今日的な課題に応じた研修や新たに専科教員研修を実施したことで、よりニーズに応じた内容となり、各自が課題意識をもって研修することができた。	初任者や若手教員等、キャリアステージに応じた研修を実施するとともに、不登校児童生徒や外国人児童生徒への対応、特別な配慮を要する子供への支援等、今日的な課題に応じた研修を実施する。また、新たに教員の教養を深めることを目的とした教養講座を実施する。
42	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	①確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐむ教育の推進	児童・生徒1人あたりの学校図書貸出冊数	維持指標	冊/月	4	4	4.1	102.5%	4	3.96	99.0%	4	4	4	新型コロナウイルス感染症にかかる対策が緩和され、児童生徒の図書室利用も活発になってきている。学校の統廃合による蔵書の移動が必要であったことから、年度末に図書室の利用を制限したことにより、貸出冊数が減少した学校もあった。	読書活動の推進のために利活用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業での活用を通して、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資するよう努める。
43	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている		学校給食に使用する地場産食材の品目	増加指標	品目/年	24 (H29)	26	21.0	80.8%	26	20.0	76.9%	26	26	26	出荷時期と学校給食での使用時期が合致しなかった品目、また、生育状況により確保できなかった品目があった。	農業水産課担当やJA高岡との連携を密に行い、学校給食で使用する品目や時期について情報共有し、生産者の新規開拓を検討する。引き続き、生産量が少ない品目について、一部の学校での使用を検討するなど可能な限り地場産食材を使用する。

高岡市総合計画第4次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

資料No.2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (N)は新規・変更のあった指標	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R5年度 実績値	R5年度 達成率	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応 (評価・課題)	R6年度 の取組み内容 (今後の方向性)
44	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	②地域に開かれた特 色ある教育活動の充 実	英検3級以上を取得している中学3 年生の割合(英検3級以上相当の 英語力を有すると思われる生徒を 含む)	増加指標	%	50 (文科省で定 める基準)	50	50.3	100.6%	52	59.1	113.7%	53	53	55	グローバル化の進展が急速に進む中、英語力を身に付け、 その英語力を生かして、様々な情報を活用して知識を得る ことに魅力を感じたり、その必要性を感じたりしている生徒 が多い。	これまで同様、一人一台学習専用端末を有効に活用して英 語力を向上させる学習方法や、児童生徒の興味・関心を高 める指導の在り方について紹介する機会を検討する。
45	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている		郷土に誇りをもつ心を育むことがで きた児童生徒・教員の割合(児童・ 生徒)	維持指標	児童・生徒 %	90	90	91.0	101.1%	90	92.9	103.2%	90	90	90	工房等の見学や指導講師(作り手)から直接指導を受ける 作品製作において、技のすばらしさや制作の苦労だけでなく、 生き方そのものを学び、高岡の伝統工芸を誇りに思う児童 生徒が非常に多い。	昨年度同様、組合や指導講師と連携し、学習を進めていく。 講師の減少、負担軽減等の課題があり、協議をしながら新 たな学習形態等について検討する。
46	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている		郷土に誇りをもつ心を育むことがで きた児童生徒・教員の割合(教員)	維持指標	教員	90	90	98.0	108.9%	90	94.7	105.2%	90	90	90	指導講師(作り手)に直接指導をうける機会は非常に貴重で あり、伝統工芸に対する興味関心だけでなく、郷土への見 方を広げ、誇りと愛着を育むうえでも教育的効果があると思 う教員が非常に多い。	昨年度同様、組合や指導講師と連携し、学習を進めていく。 講師の減少、負担軽減等の課題があり、協議をしながら新 たな学習形態等について検討する。
47	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	③教育効果を高める 教育環境の充実	④学習状況調査において、ICT機 器を活用した授業をほぼ毎日行っ ていると回答した学校の割合	増加指標	%	61.2	70	74.0	105.7%	80	87.5	109.4%	90	95	100	児童生徒同士でOneNote等クラウドを活用して協働的な学 習を進めたり、教師用デジタル教科書や実物投影機を活用 して資料を大型テレビで提示したりするなど、ICT機器を効 果的に活用した授業が増えている。ICTに苦手意識のある 教員も校務でICTを積極的に活用することで、ICTの活用の 仕方への理解が広まりつつある。	R5年度に作成した学習専用端末の活用法や活用事例を系 統的にまとめた表を研修会で周知することで、授業での活 用を増やし効果的であった事例を集めて系統表のさらなる 充実を図る。また、NHK for Schoolの活用推進委員会を設 け、有用な動画コンテンツの情報を市内で共有することで、 教師や児童生徒が主体的に情報を活用する機会を増やし ていく。
48	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	④高等学校・高等教 育機関の充実・連携	高等教育機関と連携した事業への 参加者数	増加指標	人/年	360 (H30-R2平 均)	370	386	104.3%	380	391	102.9%	390	405	420	高等教育機関との連携事業のうち、富山大学芸術文化学 部のまちづくり授業で学生提案のあった、まちづくり企画に ついて、R6に事業を実施予定。	引き続き、まちづくり授業において学生の自由な発想を前向 きに受け取め、事業化に向け検討する。 法科大学との連携事業では、地元高岡に興味を持てる内容 になるよう適切なカリキュラムを大学と調整する。
49	子育て・教育	10 いくつになっても興味の あることを気軽に学べている	①ライフステージに応 じた生涯学習の振興	生涯学習センターの利用者数	維持指標	人/年	110,534 (R2)	130,000	161,221	124.0%	150,000	194,582	129.7%	150,000	150,000	150,000	新型コロナウイルス感染症の5類移行や無料Wi-Fiを導入し たこともあり、諸室や交流スペース等に多くの利用があっ た。また、ホールについても芸術祭や音楽公演、企業の研 修会など多くの団体に利用されたことから、目標値を達成し た。	引き続き、機能の維持に努めながら、幅広いニーズに対応 できるよう、サービスの向上に取り組んでいく。
50	子育て・教育	10 いくつになっても興味の あることを気軽に学べている	②未来を担う世代の 育成と若者が主体と なるまちづくりの推進	中学校土曜学習における学習支援 員(大学生)の延べ人数	維持指標	人/年	22 (H30-R2平 均)	30	36	120.0%	30	46	153.3%	30	30	30	大学への依頼や広報を通し、十分な人材を確保することが できたため、目標値を達成した。	引き続き、大学への依頼や広報を行い、十分な人材の確保 を目指す。活動においても、より活発で実りある有意義なも のとなることを目指して取り組む。
51	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツ を楽しんでいる	①生涯スポーツ活動 の充実	◎体育施設の利用者数	維持指標	人/年	736,000	736,000	587,709	79.9%	736,000	530,136	72.0%	736,000	736,000	736,000	長慶寺室内プール及びスポーツレクリエーションホームの 廃止やスポーツコアイベント広場の改修、猛暑や令和6年 能登半島地震の影響など、様々な要因が重なり、施設利用 者が減少していると考えられる	減少している施設利用者数について、コロナ禍前の状態に 回復できるよう、市民へのスポーツ活動機会の提供等により 一層取り組んでいく。
52	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツ を楽しんでいる	②スポーツ施設の充 実と効率的な活用	◎学校体育施設開放の利用者数	維持指標	人/年	322,000	322,000	228,765	71.0%	322,000	217,020	67.4%	322,000	322,000	322,000	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用者数は回復 傾向にある。	学校開放施設に予約システム及びスマートロックを導入し、 誰もが気軽にスポーツを楽しむことができ、利用者の利便 性が高まるよう取り組む。
53	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立し て暮らしている	①地域福祉の推進	◎④地域共生社会の実現に向け、 地域住民が集い地域のこについて 協議する場の開催回数	増加指標	回/年	55 (R2)	60	35	58.3%	70	53	75.7%	80	90	90	あつかり福祉推進モデル事業について、R5年度で国吉地区 が終了し、新たに博労地区が加わったが、日程調整の都合 により予定よりも会議の回数は増えなかった。ただし、ケア ネット事業に係る会議が増加し、全体的な会議の開催回数 としては、コロナ禍前の状況に戻りつつある。	引き続き、あつかり福祉ネット関連会議(校区社協研修会 等)のほか、支え合う地域づくり会議などを開催し、地域住 民の話し合いの場を増やしていく。また、あつかり福祉推進 モデル事業の取組みを各地区に広げ、地域住民が自発的 に地域課題に取り組む体制を整えていく。
54	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立し て暮らしている		④地域共生社会の実現に向け、地 区診断を実施し、あつかり総合補助 事業実施地区数(累計)	増加指標	地区	-	5	2	40.0%	10	3	30.0%	15	20	27	R5年度で国吉地区のワークショップが終了した。地域のつ ながりを意識したプロジェクトが実施され、参加者に今後も この取組みを継続させていくことが必要であると認識してい ただいた。R6年度から配置する生活支援コーディネーター により定期的なフォローアップが必要である。	あつかり福祉推進モデル事業の取組みを各地区に広げ、地 域住民が自発的に地域課題に取り組む体制を整えていく。
55	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立し て暮らしている		ボランティアセンター登録人数	維持指標	人/年	9,892 (R2)	10,000	9,200	92.0%	10,000	9,381	93.8%	10,000	10,000	10,000	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことや令和6年 度能登半島地震の影響もあり、登録人数の増加、活動機会は 回復傾向がみられた。しかし依然として施設や病院内での 活動には制限がある。また会員の高齢化による退会者数や 脱退数の増加、退職年齢の引き上げ等によるなり手不足 は継続して見られる。	引き続き、ボランティア養成講座等を通して活動内容や魅 力を伝ええるとともに、ボランティア団体への補助金制度の見 直し等、会員が活動しやすい環境が整備されるよう更なる 支援を図る。
56	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立し て暮らしている	②障がい者(児)福 祉・自立支援対策の 充実	障がい者相談支援センター相談件 数	増加指標	件/年	13,846 (R2)	15,000	14,506	96.7%	15,250	12,938	84.8%	15,500	15,750	16,000	障がい者相談支援センターの存在を知らない新規の相談 者が増加してきたことにより、来所相談は減少傾向にある。 反面、市役所窓口での相談は増加傾向であることから、障 がい児者相談支援センターの存在の周知に努める必要がある。	障害を持つ人やその周囲の人が必要な時に必要な支援を 受けられるよう、多分野の関係機関による積極的な相互連 携を回り、相談・支援体制の強化に努める。R6年度から障 がい児を対象とした相談支援事業を業務委託しており、障 がい児の相談から療育まで切れ目のない支援を速やかに つなぐよう努める。
57	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立し て暮らしている		④福祉施設利用者の一般就労へ の移行者数	増加指標	人/年	15 (R元)	17	22	129.4%	19	16	84.2%	19	20	20	福祉施設利用者は増加しているものの一般就労に繋がら ない状況であり、目標値の達成に至らなかった。就労支援 部会等におけるネットワークを通じて障がい者雇用の促進 に取り組んでいく。	ハローワークによる企業説明会や特別支援学校での進路 説明会など関係機関と引き続き連携を取り、障がい者雇用 の促進に向けた施策を実施していく。
58	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立し て暮らしている	③高齢者福祉の充実	認知症サポーター養成数(累計)	増加指標	人	19,788 (R2)	23,500	21,549	91.7%	25,000	22,708	90.8%	26,500	28,000	29,500	R5年度の認知症サポーター養成数は、1,159人で年間1,500 人の増加という目標は達成できなかった。認知症サポー ター養成講座の周知・PR不足であると思われる。	様々な広報媒体を通じて、講座の周知や開催の募集、「認知 症サポーター養成講座」の受講等を条件とする「たかお か認知症パートナー宣言事業所」の登録制度についての周 知・PR等の取り組みを継続して行っていく。
59	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立し て暮らしている		④認知症高齢者等SOS緊急ダイヤ ルシステム協力団体配信箇所数 (累計)	増加指標	箇所	359 (R2)	420	399	95.0%	450	392	87.1%	480	510	540	当該事業の認知度を広い世代において高めるため、LINEに よる周知を実施し、協力団体の募集も行ったものの、配信 箇所数の増加には至らなかった。	行方不明高齢者の早期発見には、より多くの方に捜索に協 力していただく体制が必要となるため、ホームページや高岡 市公式LINEなどを活用し、登録数の増加を図っていく。

高岡市総合計画第4次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

資料No.2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (N)は新規・変更のあった指標	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R5年度 実績値	R5年度 達成率	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応 (評価・課題)	R6年度の実組み内容 (今後の方向性)
60	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている		㉞要支援1・2の認定率	維持指標	%	3.5 (R2)	3.5	4.1	82.9%	3.5	4.6	68.6%	3.5	3.5	3.5	後期高齢者数の増加(R4:31,722人、R5:32,879人 +1,157人)もあり、要支援認定率3.5%の維持ができなかった。高齢期を含め幅広い世代において、介護予防に取り組んでいただけるよう啓発が必要である。	住民主体の通いの場、通所型サービス8等を活用し、介護予防を推進していく。併せて、TAKAOKAアプリを活用し、青壮年期を含め、市民が主体的に介護予防に取り組んでいけるような仕組みを拡大していく。
61	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	健康寿命:市民の平均寿命から介護を要する平均期間(要介護2以上)を差し引いた期間	増加指標	男:歳	79.39 (R元)	79.51	78.49	98.7%	79.63	78.39	98.4%	79.75	79.87	80	健康寿命は増減を繰り返しながら、横ばいで推移している。健康増進計画のこれまでの取組実績と課題を踏まえ、引き続き生活習慣病予防、介護予防のより一層の推進による健康寿命延伸を図る必要がある。	健康寿命の延伸は、高岡市健康増進計画「健康たかおかスマイルプラン」の基本目標である。がんや糖尿病などの生活習慣病の増加や、青壮年層の生活習慣の問題が引き続き見られる等の課題もあることから、生活習慣を含む個人の行動や健康状態の改善について更なる促進を図る。
62	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる		健康寿命:市民の平均寿命から介護を要する平均期間(要介護2以上)を差し引いた期間	増加指標	女:歳	84.89 (R元)	84.91	83.67	98.5%	84.93	83.36	98.2%	84.95	84.97	85	健康寿命は増減を繰り返しながら、横ばいで推移している。健康増進計画のこれまでの取組実績と課題を踏まえ、引き続き生活習慣病予防、介護予防のより一層の推進による健康寿命延伸を図る必要がある。	健康寿命の延伸は、高岡市健康増進計画「健康たかおかスマイルプラン」の基本目標である。がんや糖尿病などの生活習慣病の増加や、青壮年層の生活習慣の問題が引き続き見られる等の課題もあることから、生活習慣を含む個人の行動や健康状態の改善について更なる促進を図る。
63	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる		㉞国保データベース(KDB)システムのデータを活用した、特定健康診査受診者に対するHbA1c(ヘモグロビンエイワンシー)6.5%以上の割合	維持指標	%	13.9 (R2)	13.9	12.9	107.2%	13.9	12.4	110.8%	13.9	13.9	13.9	受診推奨基準であるHbA1c6.5%以上の割合は、基準値であるR2年度と比較して、やや減少した。	生活習慣病の早期発見のため、特定健康診査の受診率向上を図りつつ、有所見者に対する個別の保健指導に力を入れ、生活習慣病の早期改善、重症化予防に取り組む。
64	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	②医療体制・医療制度の充実	市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率(紹介率)	維持指標	%	70.6 (R2)	70	70.4	100.6%	70	78.8	112.6%	70	70	70	市民病院において医療連携懇話会の開催、開業医訪問の実施、病院フェスティバルの開催、広報紙「Heart」の発行、逆紹介の推進等を行い、紹介率は目標値を達成した。一方で患者数が減少しており、紹介患者数増加が課題。	引き続き、開業医訪問や医療連携懇話会、病院フェスティバル、逆紹介の推進を通じて地域医療機関等との関係性を強化より紹介率の目標値の達成維持と紹介患者数増を目指す。
65	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる		市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率(逆紹介率)	増加指標	%	90.4 (R2)	100	98.6	98.6%	100	106.6	106.6%	100	100	100	市民病院において医療連携懇話会の開催、開業医訪問の実施、病院フェスティバルの開催、広報紙「Heart」の発行、逆紹介の推進等を行い、逆紹介率は目標値を達成した。	引き続き、開業医訪問や医療連携懇話会、病院フェスティバル、逆紹介の推進を通じて地域医療機関等との関係性を強化より逆紹介率の目標値の達成維持を目指す。
66	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	①環境保全意識の高揚	㉞住宅用太陽光発電高度利用促進事業の利用件数(累計)	増加指標	件	36 (R2)	60	44	73.3%	80	32	40.0%	100	120	140	R5年度の実績は昨年度より12件減少し、32件となった。また、PPA(第3者所有モデル)による補助件数は2件と昨年度より1件増加した。	蓄電池に対する補助金は、今年度より富山県の補助金との併用ができなくなったため、R6年度は、大きく補助件数は減少すると思われる。今年度より、脱炭素先行地域への本格的な取り組みが始まることも考慮して、補助内容の抜本的な検討が必要になる。
67	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている		㉞環境啓発事業・環境教室の参加者数	維持指標	人/年	264 (R元)	270	162	60.0%	270	174	64.4%	270	270	270	実施件数は例年通りであったが、小規模校での実施であったことから、約64%の達成率となった。	今後も企業・団体と連携した地域環境教室を実施し、環境教育の環を広げていく。
68	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	②環境保全対策の充実	㉞地域で実施される美化活動の参加者数	維持指標	人/年	27,700 (H29-R元平均)	35,000	30,000	85.7%	35,000	30,000	85.7%	35,000	35,000	35,000	R5年度の実績は、近年の人口減少や少子高齢化に伴う参加者の高齢化等により、活動参加者数の達成率は85.7%に留まった。	美化協定の意義について市民の理解を深めるため、各美化協定団体の活動状況等を市ホームページや広報誌に掲載するなど、効果的な広報活動を通じた周知を進めていく。
69	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	ごみの再生利用率	増加指標	%	21.1 (R元)	23.5	20.7	88.1%	24.0	20.4	85.0%	24.6	25.4	26.1	R5年度の再生利用率は20.1%であり、概ね横ばいで推移している。目標値の達成に向けては、新たな資源化の手法を検討する必要がある。	目標達成に向け、R6年10月から木質系廃棄物の資源化、プラスチック資源の一括回収を実施する。今後は、焼却灰及び使用済おむつの資源化に向けて検討を進めていく。
70	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている		ごみの排出量	減少指標	t/年	60,162 (R元)	60,023	57,274	104.6%	59,826	56,099	106.2%	59,306	58,946	58,560	排出量は年々減少する傾向にあり、R2年度の時点で目標を達成している。	さらなるごみの減量化に向け、ごみ処理にかかるコスト意識の醸成、ごみを出さない生活スタイルの推進、事業者と連携したごみの削減、手付かず食品の再利用の推進を重点施策として、各種取り組みを進める。
71	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	㉞防災士の登録者数(累計)	増加指標	人	206人 (R2)	274	302	110.2%	308	360	116.9%	342	375	408	防災士の登録者数は目標を上回るペースで増加している。	防災士養成研修にかかる受講料等の補助を継続し、防災士資格の取得促進を図る。
72	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		㉞総合防災訓練の実施地区数(累計)	増加指標	校区	6 (R3)	7	7	100.0%	8	8	100.0%	9	11	12	計画どおりに進捗している。R5年度は芳野中学校区で総合防災訓練を実施した。	R6年度は、計画どおり、1校区(南星中学校区)で実施する予定である。
73	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		㉞まるごとまちごとハザードマップの整備地区数(累計)	増加指標	校区	1 (R3)	5	5	100.0%	8	8	100.0%	11	16	25	計画どおりに進捗している。	計画どおり3校区(能町、戸出東部、戸出西部)で実施予定
74	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	②消防・救急・救助体制の充実	救命講習会修了者数	維持指標	人/年	2,688 (人口推計を基に算出)	2,700	2,631	97.4%	2,700	3,540	131.1%	2,700	2,700	2,700	R5年度の救急出動におけるバイスタンダーCPR実施率は51.69%(107/207)であった。119番通報時に心肺停止を見抜く聴取能力及び口頭指導技術の向上を図り、また、出動指令内容から心肺停止が疑われる場合には、救急隊からのコールバックを実施するなど、バイスタンダーCPR実施率向上に努める。	AEDの取扱いを含めた救命講習の充実を図り、救命率の向上と市民への応急手当の普及啓発を図る。また、老人福祉施設等への救急出動が増加していることから、老人福祉施設等への救命講習を推進するとともに、小学生から応急手当に関する啓蒙を図ることにより、未来を見据えたバイスタンダーの育成を目指す。
75	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		防火防災講習会(デジタルコンテンツによる受講回数含む)参加者数	維持指標	人/年	2,356 (R3.4現在の人口を基に算出)	2,400	5,335	222.3%	2,400	4,749	197.9%	2,400	2,400	2,400	R5年度の防火防災講習会の参加者数は、新型コロナウイルス感染症5類移行後、住民の意欲的な参加等により、目標値を大きく上回ることができた。その一方で、デジタルコンテンツの視聴者数が運用を開始したR3年度から年々減少傾向となっている。	引き続き、自治会等と連携して防火防災講習会を積極的に開催するとともに、デジタル講習での受講参加者を増やすため、新たなコンテンツを追加し、デジタル講習の充実を図る。

高岡市総合計画第4次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

資料No.2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (ℕは新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R5年度 実績値	R5年度 達成率	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応 (評価・課題)	R6年度取り組み内容 (今後の方向性)
76	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	③道路整備、交通安全・防犯対策の充実	ℕ交通人身事故件数	維持指標	件/年	322 (R2)	322以下	315	102.2%	322以下	305	105.3%	322以下	322以下	322以下	R4年と比較すると、人身事故の発生件数は減少したが、死者数は同数の4名となった。R5年の死者4名の全てが65歳以上の高齢者であり、そのうち自転車利用者は2名であったことから、特に高齢者を対象とした交通安全啓発及びヘルメット着用をはじめとした自転車安全利用の呼びかけが必要と考える。	交通安全運動等において、引き続き交通安全に係る広報啓発活動に努める。 高齢者を対象とした交通安全教室を開催し、交通安全意識の高揚を図る。 努力義務化された自転車利用時のヘルメットの着用をはじめとした自転車安全利用五則の周知・徹底を図る。
77	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	ℕ花いっぱい連盟の花苗配布数(累計)	増加指標	苗	50,317 (R2)	50,817	54,889	108.0%	51,317	48,046	93.6%	51,817	52,317	52,817	花いっぱい連盟において夏苗・秋苗の配付を行ったが、目標値に届かなかった。	引き続き、イベント等において、花いっぱい連盟の会員募集の案内を行い、会員増に努める。
78	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕ景観の届出行為に関する緑地面積及び開発行為・区画整理事業による緑地面積の合計(累計)	増加指標	m ²	5,000 (H28-R2平均)	5,000	6,623	132.5%	10,000	17,227	172.3%	15,000	20,000	25,000	大規模な開発があり、緑地の整備に取り組んでいただいた結果、年次目標値を大きく上回った。	緑地の設置について、これまでと同様、開発事業者等に指導していく。
79	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑤河川・海岸の保全・整備	河川整備率	増加指標	%	87.9 (R2)	88.3	88.2	99.9%	88.4	88.2	99.8%	88.6	88.7	88.9	目標値は概ね達成できた。今後も国庫補助を活用し、河川整備を進める。 ・R5年度施工実績 L=16m	R6年度は守山川、内古川及び大井川等において改修工事を実施する予定である。
80	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑥雪対策の充実	民間消雪施設の更新・拡充	維持指標	箇所/年	6	6	3	50.0%	6	7	116.7%	6	6	6	目標値を達成している。消雪施設や補助利用の相談が増加していることから、引き続き支援促進に努めていく。	引き続き、民間消雪施設の維持・拡充に向けて、相談の受付や補助等の支援に取り組んでいく。
81	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕ除雪オペレーターの確保	維持指標	人/年	10	10	10	100.0%	10	3	30.0%	10	10	10	R4年度は応募者が少なく目標値を達しなかった。積雪が少なかったかと思われる。	引き続き、講習費への補助等の支援に取り組み、除雪オペレーターの育成や確保を図る。
82	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑦上・下水道の整備	上水道管路の耐震化率	増加指標	%	24.8 (R2)	26.0	25.8	99.2%	26.6	26.3	98.9%	27.3	28.0	28.7	目標値を概ね達成しており、今後も事業を継続していく。資材・単価の上昇による工事費の増大に伴い施工量が減少したことが目標値未達の要因であると考えており、今後、設計や工事監督の適正化を徹底し、コスト削減に努める必要がある。	事業計画の見直しにより、上水道管路の耐震化率の目標値達成を目指す。
83	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕ污水处理人口普及率	増加指標	%	96.2 (R2)	96.8	96.5	99.7%	97.1	96.6	99.5%	97.5	97.8	98.2	目標値を概ね達成しており、今後も事業を継続していく。下水道計画区域においては、下水道未普及地域について国の補助金制度を活用しながら、計画的に整備を進めている。	R6年度も例年通り未普及地域について、計画的に整備を進めていく。 【R6年度事業内容】未普及地域解消事業費 516,600千円 L=2.9km
84	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑧消費生活の向上	ℕ通話録音装置利用者数(累計)	増加指標	人	52 (R2)	80	99	123.8%	110	125	113.6%	140	170	200	目標値は達成しているが、R5年度の新規利用申請は26件であり、R4年度の28件から2件減少した。	引き続き、市ホームページや広報誌、民生委員への周知依頼などを通じて、新規利用申請数の増加を図る。
85	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	①市民が主役の地域づくりへの支援	ℕ多機能地域自治組織の結成に向けた取り組み開始地区数(累計)	増加指標	地区	-	3	2	66.7%	8	4	50.0%	16	26	36	先行して取り組みを進めてきた2地区に対し、新たに外部アドバイザーを招聘して導入の支援を強化し、設立に向けた準備を進めることができた。他地区において、多機能地域自治の必要性を理解してもらうなどの意識醸成が課題である。また、多機能自治を導入するにあたり、地域交流センター等での事務支援を強化していく必要がある。	先行した2地区に加え、新たに2地区においても外部アドバイザーによる支援を行い、設立に向けた取り組みを進めていく。 これらの地区での有効性を、各地区の連合役員を対象とした事例報告会の開催や、出前講座の実施、市連広報誌に掲載することなどでお示ししながら、地域交流センターを拠点にセンター職員も加わり、多機能地域自治の導入を検討してもらえるよう働き掛け、他地区での取り組みの拡大を図る。
86	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	②多文化共生社会の推進	◎多文化共生・国際交流(通訳・日本語支援・ホームステイ等)におけるボランティアの登録者数(累計)	増加指標	人	128 (R3.4)	148	149	100.7%	158	159	100.6%	168	178	188	災害時外国人支援ボランティア育成研修及び日本語支援ボランティアスキルアップ研修を通して、周知・PRIに取り組み、目標値を達成した。	高岡市多文化共生プラン(第3次)に基づく施策に取り組み、毎年10人ずつの増加を目指す。また、これまで新型コロナウイルスの影響でボランティア活動の場が減少していることから、ボランティアの方を対象にスキルアップ研修を実施するなど、ボランティア活動の継続につながるモチベーションの向上を図る。
87	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている		外国人のための生活相談コーナー(市役所1階)の利用者数	維持指標	件/年	2,800 (H30-R2平均)	2,800	3,633	129.8%	2,800	3,182	113.6%	2,800	2,800	2,800	外国人のための生活相談コーナーの開設時間の拡充(火曜日8:30～12:00)とともに、ベトナム語での相談受付の開始(月曜日8:30～12:00)など、体制の充実を図り、目標値を達成した。(実数の減は、新型コロナワクチン接種等医療相談や、マイナンバーカードに関する相談件数が減少したことによるもの)	相談員を対象とした研修や相談員同士のネットワークづくりの機会を提供し、相談対応のスキルアップに取り組む。
88	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	③男女平等・共同参画社会の実現	ℕ男女平等・共同参画に関する講座等の参加者数	増加指標	人/年	195 (R2)	247	575	232.8%	299	713	238.5%	351	403	455	R5年度は、デートDV等啓発講座において新たに高等学校からの講座依頼があったことが、講座参加者数の増加に繋がった。	市民ニーズに応じた内容の講座を開催するとともに、SNS等で講座の開催情報を発信し、参加者数の増加と男女平等・共同参画意識の浸透を図る。
89	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	④平和な地域社会の形成	人権セミナー参加者人数(累計)	増加指標	人	400	810	1,107	136.7%	1,230	2,504	203.6%	1,660	2,100	2,550	R5年度は新規で実施したスマホ・ケータイ安全教室(人権教室)の参加者数が、1中学校の全校生徒650名だったため、数値が増加した。	R6年度は6校及び学童保育で人権教室を実施予定。併せて人権の花運動や車いすバスケットを実施し、参加者の増加を図る。 今後も継続して、市内6校及び学童保育で人権教室を開催していく。開催校の規模にも寄るが、複数年での参加を呼び掛け、人権教育の推進を図っていく。また、人権の集いについても、時勢に即したテーマを設定し、参加者数の増加を目指す。
90	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	①市民に開かれた市	ℕまちづくりの出前講座の動画数(累計)	増加指標	件	-	5	6	120.0%	10	10	100.0%	20	25	30	新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、出前講座の申し込み数も回復傾向にあることから、動画講座を内容紹介中心の作りにシフトしている。出前講座受講を検討している方向けに、講座内容がよりイメージしやすくなるよう、動画を増やしていく。	図や実際の講座の様子を盛り込む工夫などにより、よりわかりやすい動画を作成する。

高岡市総合計画第4次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

資料No.2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (N)は新規・変更のあった指標	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R5年度 実績値	R5年度 達成率	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応 (評価・課題)	R6年度取り組み内容 (今後の方向性)
91	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	政の推進	まちづくりの出前講座の参加者数(累計)	増加指標	人	1,220 (R2)	2,320	3,243	139.8%	3,420	7,539	220.4%	4,800	5,400	6,000	新型コロナウイルス感染症の5類への移行のほか、能登半島地震の影響により、年明け以降の防災講座の受講希望者が増え、受講者数もそれに比例し、大幅に増加した。	防災分野に新たに「災害時要支援者の防災講座」を加え、市民や自治会で高まる防災意識醸成へのニーズに対応していく。
92	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	②高度情報化の推進	㊦富山県電子申請サービスに登録している申請における電子申請の割合(電子証明書(子育てワンストップサービス)が必要な申請)	増加指標	%	0.24 (R2)	6.2	0.71	11.5%	12.2	3.5	28.7%	18.2	24.2	30	R5年2月から引越し手続(6手続)について、マイナポータル(びったりサービス)でのオンライン申請が可能となったことにより、オンライン申請件数が大きく増加した。引き続き、対象手続きの拡大などオンライン申請率の向上に向けた取り組みを行う必要がある。	R5年4月から子育て・介護関係の26手続もマイナポータル(びったりサービス)で申請が可能となったものの、現在も紙や窓口での申請件数が大半を占めているため、オンライン申請による利便性向上の側面を積極的に利用者へ周知を図っていく。
93	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる		㊦富山県電子申請サービスに登録している申請における電子申請の割合(電子証明書が不要な申請)	増加指標	%	3.8 (R2)	9	33.7	374.4%	14	12.3	86.6%	19	25	30	R4年度は、新型コロナウイルス関連の申請等の影響を受け、一時的に実績値は目標値を大きく上回ったが、R5年度はそうした手続がなくなったことにより、実績値は昨年度比大幅に減少した。しかし、職員採用試験におけるオンライン申請件数の増加や長期優良住宅認定申請や固定資産税に係る家屋調査の日程調整などR5年度より新規に電子申請受付を開始した手続もあり、活用が進んでいると考える。	市民に対しては、時間や場所の制約なく申請や申込等を行えることを周知するとともに、職員に対しては、定期的に操作研修を実施し、対象手続の拡大を図る取り組みを進める。
94	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	③簡素で効率的な行財政の推進	㊦実質公債費比率18%未満の堅持	維持指標	%	18%未満	18%未満	12.0	133.3%	18%未満	11.6	135.6%	18%未満	18%未満	18%未満	算定上の分子にあたる地方債の準元利償還金(公営企業債償還繰入額)の減、算定上の分母にあたる標準財政規模の増(普通交付税の増)により、0.4%改善した。	災害復旧への対応等により、市債発行額が増加する見込みであるが、財政健全化指数が顕著に悪化しないよう、大規模事業の財源として、公共施設等整備改修基金を活用するなど、市債発行抑制に努める。